

民主

PRESS MINSHU

2008年11月(1)

号外

定価200円(消費税込み)
年間購読料3000円(送料含む)

民主党プレス民主編集部
東京都千代田区永田町1-11-1
電話 03-3595-9988(代表)
press@dpj.or.jp
http://www.dpj.or.jp

神奈川県第5区総支部版
総支部代表 田中慶秋

前衆議院議員
田中慶秋



カップめん400円の認識

麻生総理、庶民生活と余りにもかけ離れた感覚

牧山ひろえ参議院議員が国会委員会の質問で麻生総理にカップめん1個の値段を聞き
ました。総理は「最初出したときはえらく安
かった。今、400円くらい?」と答えました。
子育て真っ最中の庶民派、牧山議員が「170
円くらい」と指摘すると、総理は苦笑い。



総理、
カップめん
の値段
わかりますか?

牧山ひろえ 参議院議員

総理は庶民派をアピールしようと、都内のス
ーパーに視察に出掛けたり、タクシーの運転手
さんと話をしているところをみせたりしていますが、
物価上昇と給料ダウンで板挟みの庶民の暮ら
しが本当に理解できているのでしょうか。

マスコミで、一晩に何万円もする高級ホテルのレストランやバーで頻繁に飲
食するケースが多いことが報じられました。これに対し総理は「ホテルのバー
は安全で安い」と説明。また「幸いにして自分のお金もありますから」と、自費で
飲み食いしていることを強調し、ホテルでの飲食を正当化しています。

自費か公費かではなく、総理が一晩で飲み食いする額にも充たない年金で、
1カ月を暮らさなければならないお年寄りが大勢いるということが問題なのです。

庶民の暮らしをわかってないわ

政局より政策だと、国民に真を問う総選挙を先送り
して景気対策を打ちだしていますが、庶民の生活を
ちょっと覗き見しただけで超高級ホテルのバーを
「安い」と言う総理に、国民生活の窮状など、
わかるはずはありません。



原口衆院議員が、田中前議員の実績を語る

田中けいしゅうを国会へ送る女性の集いを開催

10月24日、激しく雨の降る中、会場には多くの女性が集まり、原口衆議院議員の話に耳を傾けました。原口議員は田中前議員が国会で多くの実績を残しながら、それを口にしないことに苦言。今議席を失っていることの損失の大きさに、みなさんはもっと気付くべきと訴えかけました。

一部の人だけが得をして
多くの人涙を流すような
政治をやっているはいけない
田中けいしゅうさんの教えだ。

原口一博衆議院議員



笑いあり、涙あり、怒りありと、熱気いっぱいの会場

- 一部の人だけが得をして多くの人たちが涙を流すような政治をやってはいけない。田中けいしゅうさんが中心となって交通バリアフリー法案をつくっていただいた。その心は、一人ひとりを大切にすることだ。
- 労働者、主婦、小さな子どもを追いまくって、そして今、異常行動が起きている。社会の歪みが弱い人を襲っているからだ。絆を復活させて誰かの成功が自分の失敗になる社会にしてはいけない。このこともけいしゅうさんから教えていただいた。
- 予算委員会のとき、年金問題も上田議員（現埼玉県知事）と私とでけいしゅうさんに指示いただいて質問した。年金がなくなっているのは少子高齢化だけではない。運用の失敗で1年だけで約6兆円を失っている。若い人が減って高齢者が増えているから減らされている、それだけしか言わない人がいたら、それはウソだと思ってい。税金が足りないから消費税を上げなければという人は、ちょっとおかしい。（政府は）民主党の子育て支援の財源は一体何処にあるのかと言うのに、年金をなくしているなんて一切言わない。けいしゅうさんが国会に戻れば運用をかえられる。
- （患者のたらい回しについて）けいしゅうさんを中心に「患者の権利法」をつくった。患者側が医療行為を全部開いてみせてもらって、質をチェックできる法律だ。過半数の議席がある参議院では通るようになったが、今まで4回提出しているが（衆議院で）通らない。
- 後期高齢者医療制度は7割の人の負担が軽減されると言うがウソだ。今まで、6200億円の公費（税金）で医療を支えていた部分をなくしてしまった。郵政選挙で議席を得た人たちによって、訳のわからない後期高齢者医療制度が2年前に強行解決された。本来なら、けいしゅうさんが座っている席に他の人が座っている。だから、こんなことが起きている。（原口議員講演の要旨を抜粋）



東戸塚駅のラッシュ時。
 走る人が多く子どもが危ない。
 原因のひとつは
 電車の本数が少ないこと！



東戸塚駅物語

東戸塚駅に湘南電車の停車を！

陳情駅の手法を採用 東戸塚駅は約25年前に開業しました。当時の乗降客数は約2万5千人でした。駅は、ふつう国鉄と運輸省（共に当時）が全体計画の中で決定して建設しますが、東戸塚駅はこれと異なり「陳情駅」と言われる手法で建設されました。

国鉄と民間との合作 現在の東戸塚駅周辺は、田畑雑木林が広がる農村地帯で、広大な土地を整備して新しい街をつくらうという計画が、昭和40年頃に民間より持ちあがりました。それより前、戦前には「相模武蔵」と言う名の駅の建設計画がありました。これが戦争で立ち消えとなってしまいました。結局、ホーム等の専門性が求められる部分だけは国鉄が行い、駅舎や駅前ロータリー、サービス施設は陳情者が負担するという条件で建設が進められることになったのです。亡くなられた福原氏を中心に地域の方々が莫大な資金を負担し、大変な労苦を伴いながら東戸塚駅は開業にこぎ着けたのでした。

大胆な発想が結実 当時の乗降客数は約2万5千人程度。田中けいしゅう前議員は議員になる前から、街をつくるには駅が不可欠と考え、当時の運輸省、国鉄、故飛鳥田横浜市長そして地域の方と、田中けいしゅう前議員の出身母体の小糸工業食堂を借用して、駅規制設置同盟大会を開き、協議を開始。建設資金を民間が負担するという大胆な発想が身を結び、東戸塚駅建設計画は決定したのです。

湘南電車を停車 「東戸塚駅に横須賀線と湘南電車を停車させて欲しい」と、田中けいしゅう前議員は国鉄と運輸省に強く申し入れを行いました。その時は乗降客が少なく、「将来10万人を超えたら協議をする」との約束を取りつけたのでした。

停車実現へGO! 時は経過し、建設省は運輸省と合併し国土交通省に、国鉄はJR民間組織となり、当時の方々も世を去られ約束を知る人は少なくなっていました。今、東戸塚駅の乗降客数は12万5千人で当初の約束の10万人を超えました。ラッシュ時のホームは飽和状態で、いつ事故が起きてもおかしくありません。今まで、何度も国会で取り上げてきた田中けいしゅう前議員は、県、市、地域連合町内会と、湘南電車（東海道線）の停車に向けて具体化への運動を続けているのです。おしまい

東戸塚駅物語は ホームページ <http://www.慶秋.jp> “挑戦者達”より